

コンテスト通じ、新ビジネスにつながる人材育成を

FOCUS
 話題 フォーカス

福岡県 「Ruby」など活用広がる

福岡県（服部誠太郎知事）は3月22日、国産プログラミング言語「Ruby」による優れたプログラムを表彰する「フクオカRuby大賞」、県内のITスター



服部誠太郎知事と福岡県Ruby・コンテンツビジネス振興会議のまつもとゆきひろ会長らが出席した3月22日の表彰式

トアップを対象とする「福岡県ITスタートアップビジネス大賞」、プログラミング教育アプリ「スプリング」を活用した「小中学生プログラミングコンテスト」の大賞・県知事賞の表彰式を開催した。「フクオカRuby大賞」大賞は(株)バイタルリード（島根県森山昌幸社長）、県知事賞は(株)アンドパッド（東京都稲田武夫社長）。「福岡県ITスタートアップ

ビジネス大賞」大賞・県知事賞はG.G. SUPPLY(株)（福岡市、國村隼太社長）、「小中学生プログラミングコンテスト」大賞・県知事賞は飯塚市立立岩小学校の「立岩小プログラミングチーム」が受賞した。
 (株)バイタルリードはオンデマンド配車システム「TAKUZO」、(株)アンドパッドは施工管理サービス「ANDPAD」で受賞。バイタルリードの森山社長は「Rubyの生産性の高さが、スピー

ディな開発につながった」、アンドパッド開発本部の佐藤竜之介執行役員は「立ち上がりからの早さがRubyの良いところ」とメリットを語った。立岩小のチームは「福岡県の宝探し」のテーマに沿って、福岡県の特産品を取り返すストーリー性を持たせたゲームを制作。ITスタートアップ大

製品・サービス開発補助金の枠・すそ野拡充

今回、「フクオカRuby大賞」等を主催した福岡県Ruby・コンテンツビジネス振興会議は、Ruby等を使った製品・サービスの開発補助金を交付してきたが、今年度から補助金の「枠」と、補助の対象となる「すそ野」を大幅に拡充する。

従来はRuby・mRubyを活用した開発案件が対象だったところ、今年度からは「革新的IT製品・サービス開発等支援補助金」と名称を新たに、「革新的な

賞のG.G. SUPPLY 國村社長は、収穫30分以内に野菜を配送するシステムを説明し「どこでも新鮮な野菜が食べられる世界を作りたい」とビジョンを語った。

これらのコンテストの狙いについて、服部知事は「技術をうまく活用し、ビジネスに生かせる人材の育成を図る」と説明。来年春開設予定のCIC福岡との連携にも触れ「拠点づくりと人材育成を両面で進めていきたい。新しい提案やビジネス展開を楽しみにしている」と話した。

IT製品・サービスの開発」を補助の対象と定めた。必ずしもRuby・mRubyを使うことが要件ではなくなり、その対象は大幅に広がったといえる。また、補助額は前年度までが1件200万円だったところ、今年度は補助上限を1000万円にまで拡大（補助対象経費に対して1/2以内）。県の未来を見据えた産業の活性化とビジネス創出に向けて、一層力を注ぐ姿勢を見せている。

（公募の詳細は今号表紙裏面に掲載）

（編集部・荒神稔行、内野悦子）